



児童が考え、表現する姿を追って②

今回紹介するのは1年生の道徳の授業です。「みんなじょうず」というお話で、自己理解を深め、個性の伸長を図ることをねらいとした内容です。すべての児童が「わたしのじょうずなことはおふろのそうじです。」など、しっかりととした文、またきちんとした態度で発表ができていることに驚かされます。入学してほぼ2ヶ月が経ちますが、本当に発表が上手になっています。また、友だちの上手なこともどんどん手を挙げて発表することができました。教室の後方には、色画用紙で大きく「なには、どうだ。」「なにが、どうした。」と張り出されており、低学年のときにしっかり話し言葉として身に付けてほしい文の構造がいつも意識できるようになっています。子供たちはこのことを日々しっかりと学んでいるようです。



前途洋々

児童が考え、表現する姿を追って③～いもの苗植えの活動から～

本校では毎年、保護者の東さんから苗、また、交通指導でお世話になっている森田さんから畠の提供をいただき、サツマイモの栽培を行っています。今年も雨天続きの晴れ間を利用し、28日（金）に、いただいた「べにはるか」の苗を全学年植えることができました。昨年度も、おいしいおいもがたくさん収穫できたそうです。28日は、きれいに整備された畠に、一人一人苗を植えていきました。



東さんには、土の消毒・耕し、畠づくりもしていただいています。苗は畠に対して平行にしています。深さ6～7センチのところに植えます。

4年生の作業の様子です。
注意深く植えていますね。



2年生と5年生は同じ時間に植えたのですが、5年生が2年生に植え方を教えるという手順を踏みました。最後に、2年生が5年生にお礼を言ったのですが、ここで、そのお礼に対し、5年生から「返し」を、また、それに対して2年生が感想を述べていく・・・という活動が行われました。5年生からは、「最初は、何度も教えなくちゃならないのかなと思っていたけど、すぐにできたのでよかったです。」「普段話すことはあまりないけれど、一緒に活動できてよかったです。」などの「返し」がありました。さらに、2年生からは、「5年生と一緒に植えられて楽しかった！」という感想が多く出ていました。そして、お互いの名前を覚えることもでき、学年を超えたつながりを築くよい機会となりました。また、そこにいる全員が、「返し」や「感想」を挙手して言うことができました。本校では、この「返し」を大切にして指導をしています。誰かの言葉に対して、自分の思いをきちんと表現していくことの積み重ねが、相手や自分を大切にできる力の素地になるからです。小規模校である本校では、このような活動が同じ学年だけではなく、異学年同士でも可能です。この「小規模校の強み」を生かした活動をこれからもどんどん展開していきます。



5年生と2年生の交流の様子です。